

# 2018年度「FDを推進するための活動補助事業」の実績報告

心理学部 森 直久

## [目的]

昨年度までの研究と実践の成果に基づき、アクティブラーニングの一種である『学び合い』（二重かっこの学び合い）の大学教育への適用について、一応の完成形を得ることを目標とした。担当科目「心理学概論」（前期）、「心理学概説」（後期）に『学び合い』を適用した。受講生の相互交流全員の名札を作成し、これをつけながら毎回の課題の全員達成を目指し遂行を促した。昨年度の成果に従い、以下の点について具体的な改善を加えようとした。すなわち 1)課題の難易度、2)集団凝集性、3)授業前の導入、4)授業後の振り返り、5)授業中のコミュニケーションの取り方である。

前期「心理学概論」で得られた成果を、『学び合い』の全国研修である「『学び合い』フォーラム」および札幌での「『学び合い』研修」において他の実践者に開示し、改善のヒントを得ようとした。そして後期「心理学概説」で実行した。

『学び合い』にコーチングの手法を導入することによって、受講生のコミュニケーションの向上を目論んだ。

図書館と協働し『学び合い』関連図書の展示を行ない、学内啓発を行なうことを目指した。『学び合い』関連図書を購入、吟味し、本学学生や教職員に適合した図書の紹介と展示を行なった。

## [方法]

基本的に昨年度と同様である。すなわち、一週間前に授業中に解決すべき課題や補助資料を学生に送信する。教員は基本的に直接教えず、受講生同士の教えあいを促し、またホワイトボードやツイッター、web 掲示板などを利用した情報の共有と交換を推奨することを原則とする。相互交流を促すため、昨年と同様、受講生にネームプレートを付けてもらう。「心理学概論」については、昨年度以前の履修者有志数名が補助員(SA)として参加することを表明してくれたので、協力を要請した(無給)。「授業時間内に課題の全員達成」「個人による最適な学習環境の整備」が毎時間強調された。また、前回授業の振り返りを、毎回の授業の冒頭で行ない、学生の活動の改善を毎回心がけた。この振り返りについては、受講生各自に毎回、進歩した点、改善した方がよい点などを記してもらい、毎回提出してもらった。教員はこれにコメントをつけて、翌週の授業で返却した。

## [成果]

改善を心がけた点について、前期科目「心理学概論」でいくつか不首尾が発生したが、後期科目ではそのうちのいくつかを改めることができた。

不首尾の第一に、前期科目において「課題の難度」が前年度より上がってしまった。本年度より公認心理師受験資格課程がスタートし、受験者としてふさわしい知識を身につけてもらうべく、教科書をあらためた。前年度より情報量と記述の難度が増大し、一部「教科書が読めない」受講生が発生した。教員は、読み方の指導を個別に行なったが、申告しない受講生も多く、あまり功を奏しなかった。また自らの課題達成にとどまり、他と協力する段階まで到達することが難しかった。そこで後期科目「心理学概説」では、同じ教科書を使用しつつ、読み方のガイド(「教科書ガイド」)を作成し、課題とともに一週間前に配布した。また「心理学概説」は公認心理師受験資格課程の科目ではないため、毎回の課題の難度を低くし、多くの学生が容易に達成できるように心がけた。そのせいか、「心理学概説」では前期科目より、学生間の交流が増えた。

第二に集団凝集性についても、前期科目で不首尾が生じた。使用した B-201 教室では、机の並びが 6 から 8 人で島をなすようになっているが、これが中途半端な閉鎖空間を形成してしまったようである。後期科目でこれを是正(二人がけのスクール型からスタート)したところ、2 から 4 人の「島」ができるものの、この間を行き来して情報交換する「船」役の学生が登場し、結果として全体の凝集性が担保されたようである。

授業前の導入語りは、5 分程度におさめることが適切とされていたので、これを遵守した。一方、授業中の語りが多くなり、受講生から「注意を削ぐ」との苦情が出た。

授業後の振り返りは、コメントをつけて返却するようにして、受講生の適応を促す意図で行なわれた。しかし、不安を解消するまでに至らない受講生が一定数存在した。

授業中のコミュニケーションの取り方について、コーチングの手法を受講生に資料と授業前導入で伝えようとした。「傾聴」と「学ぶ人の応答」(「批判する人の応答」の逆)の獲得を目指した。このことよりもむしろ、コミュニケーションの質が問題となった。いわゆる「友達同士」で固まり、多様性が低下するためコミュニケーションが不活性化する「安易な同意」タイプの会話が中心になってしまった。このような会話は、健全な議論を抑制する。後期科目では、この点についても留意し、口頭でコミュニケーションの質向上を教示した。

『学び合い』の啓発については、図書課に進言し、図書の購入と特集展示を実現した。

前期科目は前年度以上に成績は向上していたが、レポート課題としたことに起因しているかもしれない。名目的な成績に成長実感が伴わない学生の声も入ってきている。後期科目については、活動の活発さに比べて成績の向上が振るわない感もあったが、受講生数の少なさ(15 名)により個人差が大きく出ているのかもしれない。また先輩 SA の逸話であるが、「心理学の知識が身につけていることが、他の授業のテスト勉強の面倒をみている時に判明した」との証言が得られたのは大きかった。

#### [課題(展望)]

次年度以降の改善点として、以下の事項に留意したい。第一に「課題の難度」である。資格課程である以上、安易な易化は避けるべきである。今回後期科目で利用した「教科書ガイド」等の補助資料の改善をはかりたい。第二に「教室レイアウト」、特に開始時の「机の配置」に気をつけたい。後期科目の経験から、「15 人程度が自由度を持ってゆるやかに接触できること」、「2 から 4 人の小集団の形成を促し、かつその間をつなぐ学生を発生させること」が肝要である。リアクションペーパーで発見できない「静かな不応答者」の早期発見と、適用補助が必要である。記名式ではないアンケートをとることを考えたい。